

令和3年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

「恵まれた環境を継続していく為に」

柏市立中原中学校 三年 ミラ 光太

社会の授業でくらしと税金についての資料をもらい、その中であつた公立学校の児童、生徒一人当たりの年間教育費負担額を見て、あまりの額に正直驚いた。小学生約八十八万五千円、中学生は百四万三千円だ。そのおかげで教室に冷暖房が完備され、今年度からは小学四年生の妹も私も、学校からタブレットが支給された。インターネットにつなげばいつでも知りたい情報を集めることができ、妹は夏休みの宿題でアルファベットを速く打つ練習を毎日しているようだ。音楽の授業で一学期にギターを一人一台ずつ貸与され、音楽室で練習したが、自宅では動画サイトを探せば様々な練習を補助してくれる動画に出会えるので、更に学びたければ継続は可能だ。私は毎日、勉強の合間に趣味のエレキギターをこれらの動画を利用して少しずつ練習している。やる気のある子供でも以前は、親がパソコンやタブレットを利用している時は使わせてもらえず、不便だったが、今は学校の生徒全てが同じ条件だ。つまり、興味ややる気があればどんな道が開けていく。また、公立の教師への給与は税金でまかなわれている。私は小学校、中学校と生徒の気持ちに寄り添い、真剣に考えてくれる様々な先生方に出会えていて、とても有り難く思っている。今回の社会の授業で、教育への財源が税金であることを知り、漠然とした思いで学校に行き、自動的に先生と出会えて、エアコンの効いた快適な教室に入れて、充電の済んだタブレットを普通に受け取っていたが、それら全ては税収がなければ不可能なことに気付いた。そしてこれは税金の使い道の一部だけの話だ。更に税金は、医療、年金、介護などの福祉サービスにも使われている。もし医療費も介護費も全額負担で、年金もお年寄りに支払われない世の中だったら、一体どうなってしまうのだろうか？そう考えると、今私達がどれだけ恵まれた環境にいるのかがよく分かった。それでは、これらを維持していくには、私達はどのようなのだろうか？まずは自分達に与えられた道具やチャンスを最大限に活かして、それぞれの目標を達成させる努力をして、この環境を次の子供達にバトンタッチすることが大事ではないか。責任は重大だが、幸い目標ややりたい事が見つかると、やる気は湧いて来るものだ。なのでまずは、チャンスは与えられたのだから、うまく活かしていきたいと思う。タブレットを初めて家に持ち帰った時、母が「今の子供達は恵まれているわね。」と言った。母の学生時代はケイタイもインターネットも無く、教室にエアコンも無く、調べ物は図書館で探し、海外の生徒と文通をした事なども話してくれた。今より不便なこともあったけれど、楽しかったそうだ。今は便利になって、アイデア次第でもっともっと可能性は広がっていく。だから、感謝して楽しみながら、今らしい自分らしい道を進んで行きたいと思う。